

日本化薬グループの環境への取組みは、地球環境保全への貢献としてKAYAKU Vision 2025のサステナビリティ重要課題の一翼を担うものであり、レスポンスブル・ケア方針に掲げた目標を重点課題として推進している。この活動は、国内外の環境に関連した法令や規則ならびに合意した協定等を遵守し、製品の開発や製造工程、事業活動等で発生する環境リスクを想定しながら、環境負荷の低減と汚染の予防、省エネルギー、気候変動、省資源、廃棄物削減等に配慮したもので、地球環境保全に貢献する全社的な取組みである。

本事業適応計画では、エアバッグ用ガス発生装置等を製造する姫路工場への太陽光発電設備の導入及び除湿空調機の更新、多拠点一括エネルギーネットワークサービスによるCO2削減施策によって、脱炭素化への取組みを実施し、炭素生産性を向上させる。

<事業適応計画の概要>

1. 事業適応計画の実施期間

2024年1月～2026年3月

2. 生産性向上目標・新需要開拓目標

炭素生産性を14.7%向上させることを目標とする。

3. 前向きな取組の内容

計画初年度は、姫路工場に野立て太陽光発電設備を設置し、全量自家消費することで工場の買電を削減する。また、従来は外気処理ウパス方式で非効率だった除湿空調機を更新し、内気循環方式のシステムを導入する。

計画2年度は、初年度の取組みを継続する。

計画3年度（目標年度）も、上記の取組みを継続する。加えて、JFEエンジニアリング(株)の提供する「多拠点一括エネルギーネットワークサービス」の活用により、高崎工場にJFEエンジニアリングが保有する形でガスエンジンコージェネを設置し、発電した電力を供給するとともに、余剰電力を他工場に融通することができるサービスにより、複数拠点の需給調整等も行う。

これらの取組を通じて、CO2排出量の削減と付加価値創出を両立し、炭素生産性を向上させる。

4. 支援措置

税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

<取組内容のイメージ>

姫路工場



太陽光発電設備の導入
による買電の削減



設備更新による除湿
空調機の効率化

会社全体



ガスエンジンコージェネを設置する工場の外観：高崎工場

「多拠点一括エネルギーネットワークサービス」の
活用によるエネルギー利用の最適化